

私の一冊

歯科衛生学科 松原 ちあき 先生

新宿19の会 編 『歌舞伎町で再犯防止について考えてみた』

小鹿図書館 326.56||Sh 63

更生保護の父と呼ばれる金原明善氏のゆかりの地である、静岡県で本書籍を推薦する。本書は、罪を犯した人の更生と「更生保護」への社会の理解に向け、まとめられている。歌舞伎町を拠点とする「新宿 19 の会」のメンバーによる編著であり、東京都新宿区の活動で物理的に遠いと感じるが、更生保護についてはどの場所であっても常に身近であると感じる。

書籍の内容は、更生保護に関わる制度の理解と様々な立場での当事者による貴重な経験の数々、近年の NPO 法人の活動や ICT の利用による支援など、社会の様子がまとめられている。

犯罪をとりまく社会環境、各省庁から発出される司法、更生保護制度や仕組みが丁寧に説明され、制度そのものの理解も深まる。制度や仕組みは少し難しく感じるが、当事者の経験がとて繊細で感情がそこにあるように書かれているため、ぐっと感じるものがある。薬物依存症、女性犯罪、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発出時の地域の様子など、様々な立場での実体験が執筆されている。一概にその感情や様子を理解できるとは簡単に発言できない。一読いただきたいと感じる。

再犯者率は 49.1%(令和 3 年版犯罪白書)、再犯防止について、保護司の活動や「人とのつながり」といったキーワードから紡ぐ様々な物語が本書に記載されている。被害者と加害者がいること、それをとりまく社会環境がある。地域で暮らすものとして、ともに生活する上で、罪を犯した人という可視化できない存在に対して、本書を読むことで多面的な視点で理解するきっかけとなると考えられる。

本書を紹介するには、私には勉強不足であり、紹介してよいものかとも憚られたが、著者が最後に「自業自得」、「自己責任」という言葉に対し、「社会のそれぞれの立場で丁寧に謙虚に、摘み取っていききたいものです。」という一文に背中を押され、現在の立場で丁寧に謙虚に本書を選び、推薦することとした。私も引き続き、よく理解していこうと考える。